

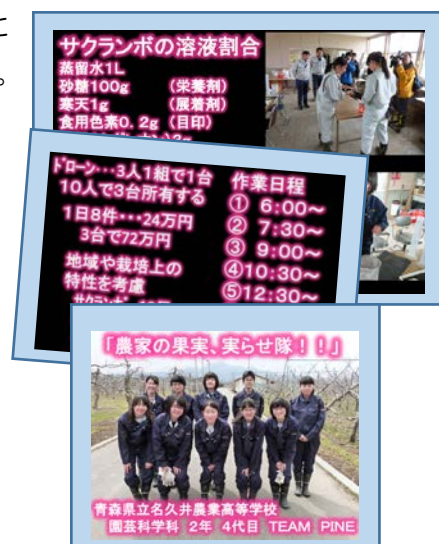


兵庫大学では、高校生を対象とした現代ビジネス学部主催「第4回現代ビジネスプラン・コンペ2018」を実施し、本選会を平成30年12月15日（土）に本学5号館401教室にて開催しました。これまでと同様に《第Ⅰ類》《第Ⅱ類》の2部門で募集し、第1次審査を通過した8校10チームの皆さんが、それぞれのビジネスプランについてのプレゼンテーションを行いました。その内容をお伝えします。

第Ⅰ類 あったらしいな こんなビジネスプラン

【最優秀賞】青森県立名久井農業高等学校 「農家の果実、実らせ隊！！」

青森県はりんごの生産量全国1位、さくらんぼの生産量は全国3位という果物の名産地ですが、農業人口の減少という問題に直面しています。同校は、ブランド果実を育てるうえで不可欠の受粉作業が高齢農家にとっては大きな負担となっている点に注目し、花粉割合を高くした溶液受粉を農業用ドローンを使って散布する方法により、高齢果樹農家を高校生がサポートするビジネスプランを考え、「フルーツの里」青森県南部町で実践した成果を発表しました。散布実験では、ここ数年で一番の結果数を確保でき、「150本で3万円の料金なら導入したい」と農家から高評価を得ました。青森県のリンゴ農家すべてで採用されれば、なんと1ヵ月で4億円超の事業になる計算に！「スマート農業」で若者が地域農業を助けるという「地方創生を意識したソーシャルビジネス」です。



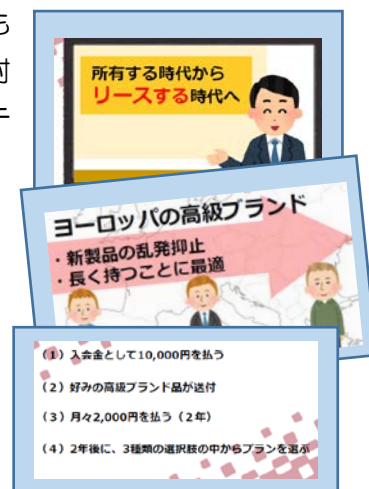
【優秀賞】兵庫県立相生産業高等学校「Oyster's shell Power～人・街・未来を美しく～」

相生市は牡蠣の産地で、同校では2014年から産業廃棄物である牡蠣殻を使った商品開発に取り組んでいます。それでも、年間1800トン発生する牡蠣殻の処理は大きな問題です。そこで、ソーラーパネルを使用したエコな集積場を建設し、牡蠣ネットを相生湾に沈めて水質改善を促す事業、地域住民に年間を通じて牡蠣殻を無料配布し再利用する事業の拠点とするプランを提案しました。集積場建設に要する費用は国からの補助金と市・地元企業からの出資によりまかない、牡蠣殻を原料として同校が開発した美肌製品（あいさん石鹸、ハンドクリーム、フェイスパック）のセット販売により施設の維持費用を確保します。相生湾の水質改善による漁業収益の増加、釣り人の来訪増加、牡蠣殻再利用の促進による経済効果などが期待できるビジネスプランです。



【審査員特別賞】神戸星城高等学校「高級ブランドの循環再リースビジネスモデル」

同校は、高校生もあこがれる高級ブランド財布を自分たちのお小遣いでも利用できるビジネスモデルを考えました。ヨーロッパの高級ブランド品を対象として未使用品を仕入れ、2年間会員にリースし、その後回収してメンテナンスを行い、再度リースを繰り返します。収入源は入会金と月額使用料で、新品、第一循環品、第二循環品とを区別してリース代を設定し、利用しやすくします。ブランド品については、リサイクルショップやレンタルショップという競合店もありますが、このビジネスモデルは、リース品の循環再利用とメンテナンス業務を融合させるところが強みです。よいものを世代を超えて長く使用することは、環境保全にもつながります。持続可能な社会をめざすビジネスプランです。



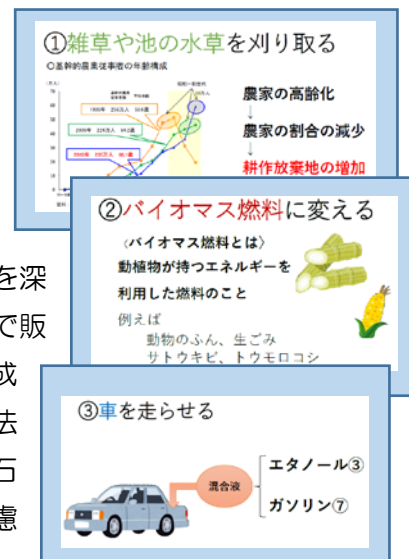
【現ビズ賞】東洋大学附属姫路高等学校 「目指せ！伝統野菜『姫路若菜』の復活」

同校は、昭和30年頃まで姫路で重宝されていた伝統野菜「姫路若菜」に注目して、ビジネスプランを考えました。姫路若菜は、抗酸化活性効果があり、栽培が簡単で何より美味という特徴がありますが、現在では、地元でも知る人が少なくなっています。そこで、学校の空き教室を利用して、管理会社がミニ植物工場を設置し、収穫した姫路若菜を学校給食に利用したり、小売店での販売を通じて伝統野菜の復活と知名度アップを目指します。学校での栽培は食育にも利用できるうえ、地産地消のメリット（鮮度や安定した価格）を活かせます。調理方法も多様で、学校給食だけでなく、主婦層や若年層の食生活にも魅力的な姫路若菜の復活を目指すビジネスプランです。



【現ビズ賞】兵庫県立東播磨高等学校 「雑走」

地球温暖化対策は世界的にも大きな課題ですが、同校は、耕作放棄地の雑草などを自動車のエネルギーとして活用するビジネスプランを発表しました。具体的には、雑草や池の水草を刈り取り、バイオマス燃料に変え、ガソリンに変わる自動車の燃料とするという内容です。このプランには、農家の高齢化に伴って耕作放棄地が増加していることにも注目し、地域住民が耕作放棄地の雑草を刈り取り、イベントを開催して交流を深めるというアイデアも含まれています。またバイオマス燃料を低価格で販売できるように、刈り取った雑草を日光の良く当たる場所に集めて光合成をさせて糖を生産し、真空で発酵させるという効率的なエタノール生成法も提案しています。「雑走（＝雑草で走る）」は、地球温暖化の抑制、化石燃料の保存、耕作放棄地の削減という今日の社会的要請に応える環境配慮型プランです。



第Ⅱ類 あったらしいな こんな地域活性化プラン

【最優秀賞】兵庫県立松陽高等学校 高校生が考える県政150周年記念事業

「商業科・生活文化科・地元企業との学科間・産学連携～高校生による被災者支援 Project～」



2018年は大きな災害が多い年でした。同校では被災者支援にかかわる中で、野菜を使った商品開発により被災者の方々を支援するProjectを防災教育・商業科・生活文化科が連携して立ち上げました。商業科では、地元の食材を使った商品企画、生活文化科はレシピづくりに携わり、野菜たっぷりの「はりまにゅう麺」と子どもや高齢者にも食べやすい災害食のパン「はりまパン」の企画・実践に取り組みました。いずれの試作品も好評を得ましたが、はりまにゅう麺は、製造技術やコスト、災害食としての保存期間の条件といった課題が多く、商品化を見送りました。「はりまパン」にもパンから出る水分がカビの原因になるという問題がありましたが、吸水性の高い紙と脱水剤の使用により課題解決し、時間がたってもパンの風味がおちない工夫を施しました。商品化に向けてNPO法人を立ち上げる予定です。

【優秀賞】金光学園高等学校 「日本遺産と国の重要文化財を身につけよう！」

岡山県は日本遺産登録数が日本一で、倉敷の繊維産業、吉備の古代遺産・桃太郎伝説などが登録されています。しかし、800年の伝統をもつ笠岡諸島白石島に伝わる「白石踊り」は継承者不足という問題に直面しています。岡山県浅口市にある同校は、伝統文化継承者不足への対応と、西日本豪雨災害で観光客が大幅に減少した倉敷の活性化を目指して、倉敷の日本遺産（デニム着物）を着て、重要文化財（白石踊り）を習得する（=身につける）日帰りツアーを企画しました。倉敷でレンタル着物に着替えて散策し、午後には倉敷のデニム工房を見学、夕方には白石島で地元のオールスターズによる指導の下、白石踊りを習得します。被災地で楽しむことが復興支援につながり、伝統文化を観光客にも気楽に体験してもらうことで後継者育成と過疎・高齢化に歯止めをかけようという地域活性化プランです。



【審査員特別賞】兵庫県立神戸商業高等学校 「大蔵海岸をパワーアップ」



神戸・須磨海岸には年間121万人の海水浴客があり、大蔵海岸は約21万人という状況に注目してその原因を考察し、大蔵海岸をパワーアップするプランを発表しました。「無料のシャワー施設がないこと」「日影が少ないこと」が原因と考え、県による出資と地元温泉企業が連携して「シャワー付きの“海の家”」の営業を考えました。県には地域活性化、企業には海の家が自社の温泉事業の広告塔になるメリットがありますが、集客増加が課題です。そこで、若者の「サービス消費指向」「インスタ映え効果」に注目し、海でのグランピング（贅沢なキャンプ）を打ち出し、大蔵海岸でのレジャーの魅力を発信するアイデアです。

【現Biz賞】兵庫県立相生産業高等学校 「相生おおの町活性化プロジェクト」

同校地域観光チームでは、相生市の過疎化対策として、市のブランド力の向上を目指す地域活性化プロジェクトに取り組みました。相生ロータリークラブより「おおの町観光 MAP」作成の依頼を受けたことがきっかけです。おおの町を散策して歴史・旧跡を学び、コメント班・挿絵班・地図班・レイアウト班に分かれて作業しました。ロータリークラブの方からは、旧跡に関する説明や絵の数を増やすべきという指摘があり、限られた紙面の中で要望に応えられるよう工夫し地図を完成させました。この観光 MAP を駅や道の駅で配布するとともに、今後は英語バージョンや SNS と連動した地図の作成にも取り組み、観光目的で相生を訪れる人を増やす予定です。



【現Biz賞】兵庫県立神戸商業高等学校 「海のごみを無くす為に…」



海のごみは現在世界的な社会問題となっています。1 分間にトラック 1 台分のプラスチックごみが捨てられており、アザラシ、鳥類、亀など海で生きる生物にも悪影響を及ぼしています。この問題への解決策として「クリーン作戦」が行われていますが、効果は一時的だと考えられます。そこで、「ポイント式ごみ箱」と海の被害を伝えるポスター掲示を提案しました。「ポイント式ごみ箱」はポイントカード式で、ごみを 7 種類に分別し重さによってポイントがもらえる仕組みです。貯まったポイントは景品と交換でき、ポイ捨て抑止につながりますが、開発費や設置に多額の資金を要することが課題です。これに対して、海の家などでのポスター掲示は低コストで注意喚起できることが利点です。これらの方法の効果を比較しつつ解決策を考察しました。

* * *



兵庫大学現代ビジネス学部主催「第5回 現代ビジネスプラン・コンペ2019」のご案内

2019 年度も下記のようにビジネスプラン・コンペを開催します。高校生らしい若さあふれるビジネスプランをお待ちしています。ふるってご応募ください。

【応募期間】 2019 年 6 月 3 日(月)～2019 年 10 月 25 日(金) 予定

【本選会】 2019 年 12 月中旬に開催予定

※ 実施に関する詳細は、2019 年 5 月下旬に、本学ホームページにてご案内いたします。